

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	福知山学園第二翠光園	施設種別	知的障害者入所更生施設
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成20年3月4日

総 評	<p>共通評価基準、付加基準ともに、利用者サービスに関する項目では、謙虚な自己評価が目立ちましたが、素晴らしい取り組みが数多く見受けられました。障害特性や適性に配慮した小集団（7班編成）活動は、施設理念の一つである『生きがいの創造＝自立支援』を具現化した端的な例といえます。また、強度行動障害者への前向きな実践と社会への提唱は、貴法人・貴施設のみならず、福祉分野全体の有効な社会資源へと繋がるものでしょう。</p> <p>経営面においては、中・長期的なビジョンが明確にされ、ビジョンを実現するための取り組みが手順を追って進められています。中でも経営コンサルタントの導入は、経営基盤の安定を図り、利用者により良いサービスを提供し続けるための、大変意義ある取り組みといえます。</p> <p>一方、良質なサービス提供の担い手は現場職員一人ひとりです。平成20年度より新しい人事管理制度の導入を予定されていますが、優れた経営分析機能を活かしつつ、現場を支える職員の方々が安心して働くことができる労働環境づくりに一層の尽力を期待します。今後ご留意いただきたい点としては、連絡事項等の職員への周知方法が挙げられます。方法は一定確立していますが、職員ヒアリングやアンケート調査において「十分でない」とする意見が少なからず聞かれました。共有すべき情報の周知徹底を図るために、更なる工夫・改善が望まれます。</p> <p>総じて評価のための根拠となる各種書類の整理が行き届いており、必要な情報をスムーズに把握できる状態でした。</p> <p>評価対応チームによる長期間に渡る綿密な協議等、第三者評価の意義を深く理解した真摯な取り組み姿勢、現状を「良し」としない謙虚な自己評価に、歴史と実績に甘んじない、たゆまぬ向上心が見てとれました。その意欲を持続させて、今後一層福祉サービスの質の向上に向けて取り組まれることを心から期待します。</p>
特に良かった点(※)	<p>I-2-（1）中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。 平成15年度に策定した「第二翠光園リバイバルプラン」を礎に、激変する外部情勢に対処するための中・長期的ビジョンが明確にされ、ビジョンに基づいた具体的な事業内容が、各事業年度の事業計画に盛り込まれている。</p> <p>II-1-（1）経営環境の変化等適切に対応している。 財務会議等の定期的かつ継続的な開催、経営コンサルタントの導入など、広範な視点から、外部環境の変化・動向の把握、経営状況の分析が行われている。</p> <p>III-2-（1）質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。 自己評価の実施、支援確認部会、処遇改善部会など、定期的にサービス内容を見直し、改善する機会が充実しており、PDCAサイクルが機能している。</p>

<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<p>Ⅱ－２－（３）職員の質の向上に向けた体制が確立されている。 施設内研修の充実・施設外研修への積極的参加等、職員の質の向上に向けた体制は高いレベルで確立されているが、個別的な研修・教育計画の策定・実行により、更なるレベルアップを期待したい。</p> <p>Ⅱ－４－（１）地域との関係が適切に確保されている。 地域住民からの相談への対応、ボランティアの受入れなど実施されているが、相談内容の取りまとめ、より幅広いボランティアの受入れ等、もう一步踏みこんだ取り組みが望まれる。また、現在企画・検討されている相談事業の開始には大いに期待したい。</p> <p>A－２（９）日常生活支援－外出、外泊 職員による外出支援等、一定の取り組みはなされているが、より利用者の希望・意向を反映することのできる体制整備を期待したい。</p>
---------------------------	--

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【共通評価基準】

評価結果対比シート

受診施設名	福知山学園第二翠光園
施設種別	知的障害者入所更生施設
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	平成20年2月8日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	A	A
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	A	A
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	B	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	A	A
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	A	A
	I-2-(2) 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	A	A
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	A	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

【自由記述欄】

I-1 理念・基本方針	理念や基本方針が事業計画書をはじめパンフレット・ホームページなどに記載されており、施設便り『翠光』や施設内各所の掲示等を通じて、職員や利用者への周知が図られている。
I-2 計画の策定	職員会議、処遇会議、各班会議などの定例会議を通して、各計画の策定・見直しが行われ、職員会議や配布物を通して職員・利用者への周知が図られている。利用者への周知に関しては、障害特性により困難な面があるが、より個に応じた方法を心がけていくことで、一層充実した取り組みにつなげてゆくことを期待したい。
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	法人・施設を取り巻く外部環境の変化等に対応すべく組織された「支援対策室」のリーダーとして、自立支援法への対応、強固な経営基盤確立への取り組み等、積極的に管理者としてのリーダーシップを発揮している。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	A	A
		③ 外部監査が実施されている。	A	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	A	A
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	B
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	A	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A
		② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A
	II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	A
② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。			A	A
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	B
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	B
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	A	A
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	B	A
② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。		A	A	

【自由記述欄】

II-1 経営状況の把握	経営コンサルタントを交え、より質の高い経営への取り組みがなされている。また、職員会議を通じ財務状況等が説明され、職員への周知が図られている。
II-2 人材の確保・養成	施設内外の研修参加を基軸とし、職員の質の向上が図られている。また、その成果が日々の業務に反映され、ソフト食の実施や音楽療法等はその成果であると考えられる。今後は、さらなる専門性の向上を目指し、職員個々人について長期的な視点に立った研修計画が策定されることが期待される。 また、(3)①については面接制度等、一定の取り組みは確認できたが、カウンセラーや専門家への相談体制の確立を期待したい。
II-3 安全管理	各施設のリスクマネジメントチームから法人のリスクマネジメント委員会へとボトムアップされる等、安全管理の体制が整備されており、委員会では法人内他施設の「ヒヤリ・ハット」事例を共有する等、施設を越えて安全対策が行われている。また、委員会による要因分析が職員に還元され、日々の業務に活かされている。
II-4 地域との交流と連携	(3)①については民生委員との連携、地域住民からの相談への対応が確認できたため、A評価とした。現在企画・検討されている相談事業の開始等、地域へよりアピールしていくことで、第二翠光園の存在が一層有効な社会資源として活かされてゆくことを期待したい。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-1 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	A	A	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A	
	Ⅲ-1-2 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	A	A	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	A	A	
	Ⅲ-1-3 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	B	A	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-1 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	A	A
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	A	A
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			A	A	
Ⅲ-2-2 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	A	A	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	A	A	
Ⅲ-2-3 サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	A	A	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-1 サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B	B
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		A	A	
	Ⅲ-3-2 サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	A	A	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-1 利用者のアセスメントが行われている。	① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	A	A	
		② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	A	A	
	Ⅲ-4-2 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	A	A	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	A	A	

【自由記述欄】

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	利用者自治会、利用者の障害特性に配慮し、ご家族を代弁者として位置づけたアンケート調査や「父兄交流会」など、利用者満足の向上に向けた十分な取り組みが行われていた。
Ⅲ-2 サービスの質の確保	利用者の障害特性に配慮した支援マニュアルを整備し、サービス標準化のための継続的な取り組みがなされている。また「支援確認会」「処遇改善部会」等、定期的なサービス内容の確認・見直し・改善の機会が非常に充実している。
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	パンフレット等の資料を地域の公共施設に置くなど、より幅広い情報提供を期待したい。
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	所定のアセスメントに基づき、サービス実施計画が策定されている。また、アセスメントおよびサービス実施計画書の評価、見直しの体制が確立され、適正に機能している。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【付加基準】 評価結果対比シート 障害者児施設

受診施設名	福知山学園第二翠光園
施設種別	知的障害者入所更生施設
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	平成20年2月8日

【付加基準】障害者・児施設版 評価結果対比シート

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-1 利用者の尊重	(1)利用者の尊重	① コミュニケーション手段を確保するための支援や工夫がなされている	A	A
		② 利用者の主体的な活動を尊重している	A	A
		③ 利用者の自力で行う日常生活上の行為に対する見守りと支援の体制が整備されている	A	A
		④ 利用者のエンパワメントの理念にもとづくプログラムがある	A	A

【自由記述欄】

A-1
TEACCH(「自閉症及び関連するコミュニケーション障害の子どものための治療と教育(Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children)」)プログラムの手法に基づいた視覚コミュニケーションの活用等、利用者の障害特性を考慮した取り組みが行われている。
また、利用者自治会への支援、「自活訓練」の実施等、利用者の主体性を尊重し、エンパワメントの理念に基づいた支援体制も充実している。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-2 日常生活支援	(1)食事	① サービス実施計画に基づいた食事サービスが用意されている	A	A
		② 食事は利用者の嗜好を考慮した献立を基本として美味しく、楽しく食べられるように工夫されている	A	A
		③ 喫食環境(食事時間を含む)に配慮している	A	A
	(2)入浴	① 入浴は、利用者の障害程度や介助方法など個人的事情に配慮している	A	A
		② 入浴は、利用者の希望に沿って行われている	B	B
		③ 浴室・脱衣場等の環境は適切である	A	A
	(3)排泄	① 排泄介助は快適に行われている	A	A
		② トイレは清潔で快適である	C	A
	(4)衣服	① 利用者の個性や好みを尊重し、衣服の選択について支援している	A	A
		② 衣類の着替え時の支援や汚れに気づいたときの対応は適切である	A	A
	(5)理容・美容	① 利用者の個性や好みを尊重し、選択について支援している	A	A
		② 理髪店や美容院の利用について配慮している	A	A
	(6)睡眠	① 安眠できるように配慮している	C	A

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-2 日常生活支援	(7)健康管理	① 日常の健康管理は適切である	A	A
		② 必要な時、迅速かつ適切な医療が受けられる	A	A
		③ 内服薬・外用薬等の扱いは確実にされている	A	A
	(8)余暇・レクリエーション	① 余暇・レクリエーションは、利用者の希望に沿って行われている	A	A
	(9)外出、外泊	① 外出は利用者の希望に応じて行われている	B	B
		② 外泊は利用者の希望に応じるよう配慮されている	B	B
	(10)所持金・預かり金の管理等	① 預かり金について、適切な管理体制が作られている	A	A
		② 新聞・雑誌の購読やテレビ等は利用者の意思や希望に沿って利用できる	A	A
		③ 嗜好品(酒、たばこ等)については、健康上の影響等に留意した上で、利用者の意志や希望が尊重されている	A	A

【自由記述欄】

A-2

喫食環境については、食事場面においてパニックを起こしやすい利用者のための小スペース利用や、利用者それぞれが自分のペースで食事をするための幅を持たせた食事時間設定など、様々な創意工夫が見られた。

サービス実施計画には、様々な支援場面における利用者それぞれの注意点や留意点が記されている。また、「入浴支援マニュアル」「排泄マニュアル」等、サービスの標準化を図るための各種マニュアルが整備され、支援確認部会等、支援内容を改善する体制も整備されている。

健康管理については、「健康管理マニュアル」「感染予防マニュアル」等のマニュアルが整備され、「健康管理日報」によって、利用者それぞれの健康状態の把握がなされている。また、内服薬・外用薬等の管理体制については、「利用者サマリー」が整理され、投薬手順等もマニュアルによってルール化が図られている。

(3)、(6)については様々な利用者の様態に苦慮しつつも工夫を重ね、柔軟な取り組みを行えていることからA評価とした。

利用者それぞれの日常的ニーズを捉え実践していくのは困難であるが、実践を模索し、積み重ねていく中で、より個に応じた支援につなげてゆくことを期待したい。